



# WALLABY

2017年3月25発行 No. 434

特定非営利活動法人 神戸日豪協会 〒651-0084 神戸市中央区磯辺通 4-2-8KIMMビル7階

Kobe Japan-Australia Society ☎078(252)0576 FAX 078(252)0347

事務所:月～金(10時～15時、来所の際は事前にお電話下さい) e-mail:[kjas@hop.ocn.ne.jp](mailto:kjas@hop.ocn.ne.jp)

**銀行振込** 三井住友銀行 神戸営業部 普通預金 □座番号 1276351

**郵便振替** □座番号 01130-6-58944 加入者名 神戸日豪協会

**年会費(一口)** 賛助会員 10000 円、通常会員 8000 円、学生会員 5000 円

賛助ペア 18000 円、通常ペア 12000 円、法人会員 30000 円

## 日本語教師アシスタント派遣プロジェクトより報告です！

協会発足時より40年の長きにわたって日本語補助教員を派遣していた Geelong Grammar School(Corio & Timbertop)への派遣は、昨年11月のビザ改正にともなうスポンサー資格変更により一時的に派遣をお休みしております。

今年の派遣校は計10校。昨年より派遣が復活した Westbourne Grammar School(VIC州)や新規校 Ballarat High School(VIC州)に加え、今年から St.Alipius School(VIC州)と Freshwater Christian College(QLD州)が仲間入りです。



↑3月25日 Freshwater Christian College(ケアンズ)にて

### 日本語教師アシスタントのビザ改正

派遣教員なら誰もが苦労した覚えのあるスペシャルプログラムビザが昨年11月で廃止となり、新ビザ(408 テンポラリーアクティビティビザ)が施行されました。スポンサーシップの関係で唯一新ビザ対応となった2017年度ALTの濱中信真くん。少ない情報、日々更新される移民局の英語サイトにも果敢に挑み、追加書類にも迅速に対応した末、待つこと2週間…3月21日に新ビザがおりました。濱中くんお疲れ様でした！ご協力いただいた派遣校の先生にも感謝！

**さあ、これでやっと10名全員がオーストラリアに揃いました。**

**皆様、応援をよろしく申し上げます！**

## まだまだ暑いです

### ザ・カシドラル・スクール (タウンズビル・QLD)

内山 優香

こんにちは。3月になりましたが、こちらは涼しくなる気配はなく毎日猛暑です。

これは今日起こったことなのですが、家に蟻が大量発生しました。(笑)

みんな割ときれい好きで、家で虫を見ることはあまりないのでびっくりしました。

雨が降った時に起こる現象だそうです。。

必死で蟻を(掃除機で)食い止め、朝から大掃除する羽目になりました(笑)



今回はカシドラルスクールの授業について感じたことを報告したいと思います。

私は小学校2年生から高校3年生までの生徒の授業に参加しているのですが、小、中、高校生でそれぞれ特徴があります。

まずは小学生ですが、生徒たちが机に向かって勉強することはほとんどしません。

歌やダンスで簡単な色や動物の名前を覚えたり、ipadのゲームを使ってひらがなを学んだりします。教室は日本と違い、ソファがありキッチンがあり、まるで家のような感じ。小学生の授業ではどれだけ生徒たちに興味を持たせるかを中心に考えられていると思います。しかしこれは日本も同様ですが、どのクラスにも必ず1人は授業に集中できな

い子がいます。そういう生徒が一人いるだけで周りの生徒も同じようにふざけだすので大変です。従ってそういう生徒たちを授業に集中させることが私の主な仕事となります。

初めはどのように対応したらいいのか分からず、ただニコニコとジェスチャーで注意していたのですが全く効果がなかったので、最近「What are you doing?」「What do you need to say for the other students?」など、先生をまねて真剣なまなざしで注意するようにしています。(笑)

中学生の授業は、本格的な日本語の勉強に入る前の導入のようなことを主にしています。例えばひらがなの読み書き、簡単な自己紹介や質疑応答です。

しかしこちらでも授業中ずっと机に向かっているということは少なく、例えば日本語の文を教室中に貼り、生徒はそれを暗記して答えるなど、毎回授業を楽しくするための工夫がされています。

中学生の授業では私は主に教室を回って分かりにくい文法や単語を一人ずつ教えるということを主にしています。私たちにとってすごく簡単に見えるものでも、生徒から見ればとても複雑なものになります。例えば生徒がすでに「きいて」という単語を習っていたとしても「ききます」を理解することはできません。すべてを1から説明する必要があります。この時点で習う文法はこれから日本語を勉強する上で基礎になる知識だと感じているので、ただ意味や答えを教えるのではなく、できるだけ生徒に考えさせるよう意識しています。生徒が閃いたときの本当に嬉しそうな顔を見て、私もすごく幸せになります。高校生になると日本語が必修科目ではなくなるため、授業のレベルは一気に上がります。私でもわからないような難しい漢字を知っていたり、日本の文化に興味がある子がたくさんいます。テキストには漫画形式で書かれているページも多いのですが、それでも単語や文法が難し

いものが多いので、それをどれだけ簡単に、わかりやすく説明できるかが私の課題だと感じています。

1 学期も残り少ないですが、どの学年でも自分に出来ることはまだまだあると思うので悔いのないように頑張ります。



### 3月報告書

#### ヒルズ・カレッジ (ジンプンバ、QLD)

関 祐一朗

Hills College で働き始めてから 1 か月ほどが経ちました。Hills College は Brisbane から車で 40 分の Jimboomba に位置しています。Prep から Year12 まで日本語の授業をしていますが、僕は主に、Prep から Year6 の授業に参加しています。勤務体系としては、8 時半から 15 時半までで Activity の時間を含め、

毎日 7 コマの授業に参加しています。Prep では、歌を歌ったり、折り紙を折るなど日本の遊びを通して日本のことを勉強しています。Term1 で Year1~Year6 は i pad を利用して「漫画」について調べ、ポスターを作成するという課題に取り組んでいます。後は、簡単な日本語での自己紹介の練習やひらがなの暗記をしています。仕事内容としては、折り紙を一緒に折ったり、ポスター作製、ひらがな学習の補助を行っています。子供たちが注意してもなかなか聞いてくれないなど苦労することもあります。楽しみながら頑張っています。Activity の時間には日本語の先生である金谷先生が主導しているジムに行ったり、スコット先生のボードゲームに参加したりしています。生徒の名前も覚え始め、生徒と休憩時間にサッカーをできるようにもなり、楽しんでいます。

生活面ですが、アシスタント仲間の日本人、ゴルファーのケニア人、台湾人と 4 人でルームシェアをしています。学校の特徴として、広大なゴルフ場が横にあり、寮生はほとんどがゴルファーであることが挙げられます。寮から学校の正門を出るまでに、20 分ほど歩かなければならないことから学校の広さが想像してもらえらると思います。ゴルファーの人とも話をしたり、毎週一緒にサッカーをしたりして楽しんでいます。また、ゴルフ場では、野生のカンガルーやポッサムが生活しているので、夕方に散歩して動物の写真を撮りに行くことも毎日の楽しみの一つになっています。そして、毎週木曜日にはナイトショッピングデーとして寮からブリスベンのショッピングセンターまでバスが出ていて、それを利用してみんなで買い物、食事を楽しんだりしています。週末には先生にブリスベシティに連れ出してもらったり、ゴールドコースト近郊の遊園地に行ったり、先生の家で飲み会をしたりするなどして過ごしています。4 つのテーマパークに行き放題の年間パスも先生から



の誘いで買ってしまいました。

1 か月はあっという間に過ぎてしまったのですが、残り 9 か月を有意義に過ごせるように計画をしっかりと建て、充実した 10 か月にできるように頑張りたいと思います。あと、来月からは英語で報告書を書けるように頑張りたいと思います！



## アシスタントとしての毎日

### ナビゲーター・カレッジ

(ポートリンカーン、SA)

村口千河

みなさんこんにちは！先日、Year4 の女の子に「私のほうが背が高いね！」と満面の笑みで言われ、Year10 の男の子には ‘You are tall!’ と気を使われ、Yaer1 の男の子たちになぜか chicken 先生と呼ばれ(chika と chicken のスペルが似ているかららしい…)、

放課後になると保護者のお迎えを待っている子どもたちに追いかけてまわされたり、いろいろな意味で楽しくも忙しい日々を送っています！そんな今月は私のアシスタントライフについてレポートを書きたいと思います！

私が働く Navigator College には第 2 言語の授業は日本語しかなく、Reception(5 歳)～Year9 までは必修科目、Year10 は選択科目として日本語を学びます。さらに今年から、学校の敷地内にある、ELC(Early Learning Center)という幼稚園でも日本語の時間が設けられることになったので下は 4 歳、上は 15 歳という幅広い年代が日本語を学んでいます。日本語の先生は 3 人いて、メインの Fiona 先生と今年度新たに着任された Alex 先生、そして Elise 先生の 3 人です。Alex 先生は昨年の夏まで日本に 5 年間住んでいた先生で日本のことをとてもよく知っておられ、また性格も日本人のように温厚な先生です。Elise 先生はもともとから Navigator の先生なのですが、昨年ポートリンカーンの高校生たちと一緒に高知県室戸市への訪問団の一員として日本に行ったことがきっかけで日本のことが大好きになり、今年から日本語の授業を担当することになりました。日本語を教えるのは初めてですが、授業以外の時間でも、「これはどうやって日本語で言うの？」と日本語の勉強も一生懸命な先生です。また ELC の授業は ELC のホームルームの先生と一緒に授業を行います。そんな個性豊かで楽しい先生たちと一緒に私はすべてのクラスのアシスタントに入るため、1 日に 5～6 コマ授業に入り、だいたい 400 人くらいの生徒の授業を担当することになります。(早く全員の名前を覚えたいところですが…)なので、1 日がバタバタと過ぎていき、気が付けば 1 週間が終わってしまっているという感じです。

授業の内容としては、各学年がタームごとに全科目に共通したテーマを持ち、テーマへの理解が深まるように授業を行います。例え

ば、Year5では「コミュニケーション」がテーマになるので、日本語の授業では、感情を表す形容詞、日本とオーストラリアのコミュニケーションスタイルの比較、日本の顔文字などを扱い、「言語の学習を通して自分を表現すること」について学びます。ほかにも、Year8は「数字が私たちの生活とどのように関わっているか」というテーマに基づいて日本語での数え方、漢数字、時刻などについて学びます。このように、各学年のテーマはどれもとても興味が引くようなテーマが設定されています。

また、Navigatorは国際的に活躍する人材を育成するIB(インターナショナルバカロレア)の学校でもあるので、生徒たちは、先生の言うことを暗記するのではなく、自分で答えを探し出すこと、習った知識を使って表現することが一番大切だと指導するので、生徒がじっと座って板書するような授業はほとんどありません。また、各テーマに基づいて生徒たちは定期的にアサイメントと呼ばれる課題のようなものを提出しなければなりません。課題といってもポスターやカードなど生徒のアイデアがあふれるひとつの作品のようなもので、生徒たちの課題はどれも見るのが楽しいものばかりです(もちろん、評価はデザインではなく必要な内容がきちんと日本語でかけているかで評価します)全科目の中で図工、美術がいちばん嫌いだった私では思いもつかない素晴らしい課題が提出されるので初めて見たときは感動を覚えました。

このほかにも学校では日本文化に関する内容も多く扱い、先日のひなまつりの時には‘Japanese Girls Day’として授業中にひな人形を折り紙で作ったり、お昼休みには小学部の女の子を対象にJapanese Roomで‘Pink Rice’をお箸を使って食べたり、しおりづくりなども行いました(詳しくは写真をご覧ください)このイベントの認知度はかなり高く、学校のカレンダーにも一つの行事として書か

れているほどで、私の想像を超える大盛況でした！イベントには日本語を選択しているYear10の女子生徒が快くヘルプに来てくれ、また多くの先生たちもカメラマンとして教室に来てくださったり、学校全体が盛り上がっているのが私としてはとても嬉しかったです。

大イベントのひなまつりがおわってホッとしたいところですが、今週は運動会、来週はYear5のキャンプの引率に行くことになっていて、学校行事が絶えないので休む暇なくバタバタと時間が過ぎていきそうです。また、今週末にはこの1か月半ホームステイでお世話になっていたFiona先生のお宅から新しいご家族のおうちに引っ越しすることが決まっています、引っ越し前にハイキングやキャンプなどたくさん楽しいことを計画してくださっているので、終わりが近づくポートリンカーンの夏を楽しみたいと思います！！

(以下 Japanese Girls Day の写真です。)



ひなまつりに ELCとYear5と合同でひな人形を作りました！



お手伝いに来てくれたYear10のみんな！ありがとう！



私はランタン作りを担当しました



左:教室前でイベント開始を待つ生徒たち

右:オープン直後の Japanese Room!

(デパートの開店ダッシュを見ているような感じ)



毎年恒例の Pink Rice! お箸に挑戦!



それぞれがかわいいひな人形を作りました! はい、チーズ!

## はじめまして

St. ALIPIUS SCHOOL (バララット、VIC)

丹羽 将一郎

私は、2017年度、ビクトリア州はバララット、St Alipius School 及び、St Columbas School の2校に派遣していただいております、丹羽将一郎です。今は、学校のある街、バララットで、朝の極寒、昼の猛暑と戦いながらも楽しく暮らしています。朝は起きたらまずヒートテックにトレーナー、フリースのパーカーを着て準備をします。(※ご存知のとおり今、オーストラリアは夏です)そのまま学校に

向かい、学校では1授業ごとに一枚ずつ脱いでいき、昼前にはフォームチェンジして夏スタイルに。最終的に帰宅時には半袖半ズボンに変身しています。つい最近、朝4℃、昼25℃の一日がありました、はい。

学校での活動についても、今は到着から一ヶ月が過ぎ、一日の流れに慣れてきて、最初よりも動けるようになってきました。というのも、他のALTのみんなと比べても英語力が目に見えて劣っていた私は正直、渡豪前から結構な量の不安を身にまといながら、オーストラリアにやってきました。しかし実際、聞き直せば何度も丁寧に説明してくれるたくさんの先生方に囲まれて、とても充実した毎日を過ごしています。ただ、小学生の子供たちに対して、そのようなことはできないので、彼らとの会話においては、奇跡的に聞き取れた僅かな量の単語をもとに顔色を見たり話し方の強弱を捉えながら、「今この子は何が言いたいんだろう」、「何を聞いて欲しいんだろう」ということを推測して推測して推測して会話に励んでいます。今は会話というよりも推測を極める作業を重点的に行っています。Guessを極めていきます。Guessの極みです。なんでもありません。続けます。

学校では2校ともに、prep~Grades6まで、全てのクラスで日本語の授業のアシスタントをしており、ときには時間の前半をいただいて、自作の授業をすることもあります。自作の授業では、構成はもちろん、話者への興味が逸れないようにする工夫や、授業中に飛んでくる生徒の質問に対応も仕事の一つになります。ひとたび、ポケモンや、寿司、折り紙など、広く知られた日本発祥の話を切り出すと何も質問していないのに、一斉に教室中の手が上がります。2~3人あててみるのですが、自分の知っていることを一心に伝えてくれようとして、ゾーン状態に入った子供の英語は速いとか、そういう次元ではないので、その時は残念ながら推測の甲斐も虚しく、「すご



い！」とか「本当!？」で会話が終了します。

今、言語に関すること以外で課題として取り組んでいるのは、子供の名前を覚えることです。徐々に覚えていこうと考えていたのですが、初日に自己紹介をして、次の日の2日目にはもう、校門や廊下、校庭で「Hi! Sho sensei!」と多くの子供たちが名前を呼んでくれました。呼んでくれたからにはそれに応えるべく、こちらでも名前呼びたいのですが、如何せん、子供の数が膨大で、2校合わせるとおそらく500人は超えており、容易ではありません。

まだまだ1ヶ月、もう1ヶ月。これからいろいろなことに挑戦して実のある報告が出来たらなと思っています。



日本が大好きな女の子2人のリクエストで巻き寿司!

## 3月報告書

ピース・ルザラン・カレッジ(ケアンズ, QLD)

横山 大

ケアンズでは、まだまだ暑さとスクールに苦しめられる日々が続いている。校舎の中で放し飼いされている3羽の鶏も暑くて死にそうな顔をしている。さて、授業開始日から2か月が経とうとしている今、とても重要である生徒との関係も徐々に築き上げていけていると感じている。ごく単純であるが、その根底には、生徒の名前を使った会話にあると考えている。生徒は自分の名前を覚えていて、いかなる時もすれ違う際は、自分の名前を元気

よく呼んでくれている。それに対して、私は挨拶の言葉しか交わさないのは、生徒に対して失礼であると感じ、悔しさが募るとともに、親しくなる初めの段階にも到達していないという焦燥感にかられていたからだ。日本人の名前を覚えるより、格段と難しいと感じることは多々あるが、それでも、生徒との距離が縮まることに喜びを感じる。

一方、学校の充実感と私生活の虚無感とのギャップも感じていた。グラッサー博士の愛・所属欲求のではないが、ホームステイでもなくシェアハウスでもない私にとって、私生活における“所属”はとても大切であると感じていた。また、何かに所属し活動することにより、言語の壁も超えると確信していた。このように客観的に自分を見つめ直す日々が続いたのち、先月5年ぶりにサッカーチームに加わり、その“所属”を実感している。徐々に忙しくなり始めるとともに、他のことも要領よくできるようになり、やっと歯車が回り始めたという実感が湧いてきた。

やっと自分の影が濃くなってきた矢先、Jodeeが2017年の3月いっぱいまで辞任することを本人の口から告げられた。2か月という本当に短い間で合ったが、コーワーカー、友達、人生の先輩、教育分野の先輩などいろいろな要素を含んだ大好きな先輩Jodeeがやめてしまうのは本当に信じがたい。が、week8になると次期日本語教員が学校にいらして、その際そのことを実感するとともに、新人教員と新人補助教員でこれからやっていくという不安も覚えた。この2か月でJodeeが魅せてくれた教育のノウハウや自分らしさを生かして、やっていかなければならないと感じた。

この1か月は自分を客観的に見て、思考する、そして行動する場面・機会が多々あったと考えている。いろいろな場面で客観的視点・批判的思考力は大切であるが、初期衝動をも感じつついろいろなことにチャレンジしていきたい。

## 2月報告

### クライストチャーチ・グラマー・スクール

(パース, WA) 西川 仁 清

2月の報告をします。2月はクリケットレンタルのアレックス（一番身長が高い人です）が母国に帰りました。1か月の共同生活でしたがとても仲良くなれました。いつもニコニコしていて、とても優しいやつでした。彼が帰る前の週にレンタルハウスで送別会をしました。生徒や先生たちが来てくれてとても楽しい送別会になりました。帰る前日にはレンタルの皆で僕のバリカンを使って、アレックスの髪の毛を切ってあげて見事な2ブロックにしてみました。学校の方では先生と毎日、生徒のためにプリントを作ったり、12年生との会話の個人授業をしていましたが、今月から先生が「まさくん、授業やりましょうか」と当日にふられて year9 と時々ほかのクラスの授業をしたりしています。先生はとてもイベント毎が好きで節分の日、節分やります？と相談したら、いいですね！だけど、豆ないですよ？なら、アメ投げます？おもしろいですよ？と話が進んで行き、なら、お面もつくりましょ！って事になって、クラスで節分をしてみんなはしゃぎまわりました。最近先生に「逃げ恥」を勧めて、もしかしたら「恋ダンス」を学芸会のときにするかもしれません。

CCGSには学期の半分が終われば、ミットンブレイクという4日間の休みがあります。私はその休暇を利用してバリ島に行ってきました。実はパースはバリ島まで片道3時間ほどでいけるので、とてもお手軽にいけます。行く前日にはニールに「昔、バリ島に行って帰ってこれなくなりそうなジャパニーズレンタルがいたんだよ！」「頼むからかえってきてくれよ hahaha」と言われ石田先輩のことを思い出しました。バリ島ではレンボンガン島、

ウブドなど遺跡、美術館、海を中心に観光しました。CCGSのご飯もおいしいのですが、1か月ぶりのアジアの味に感動して毎日5食しっかり食べていました。

とても楽しい、生活を送らせてもらっていますが、反面生徒たちがまちがった日本語をおぼえないように、夏に向けてのテストで最高得点がとれるための責任を感じています。この責任だけは忘れずに残りの日々を頑張っていきます。





## 2月報告書

### バララット・ハイスクール (バララット,VIC)

柿坂知美

2017年度派遣生の先行出発組より1か月ほど遅れて2月の半ば、無事にオーストラリアに到着しました。この度わたしが派遣していただいたのは、ビクトリア州のバララットという豊かな自然に囲まれた伝統的な町にある Ballarat High School (通称バラハイ)。この約1か月、これまでに経験したことのないような新しく楽しい毎日を過ごしています。

まったく実感のない出国をむかえた2月16日、盛夏いやもう晩夏にむかっているかな…という国へ向かうということで、真冬の京都を寒い服装で別れを告げてきたにもかかわらず、メルボルン空港に到着して一言「さむい。」バララットに到着した日は肌寒く、雨風の強い冬のような日でした。最近にいたっては30度に達するかどうかという、わたしにとってはうれしい夏日が続いていますが、これから訪れる冬にとってもおびえています。いまお世話になっているサイモン先生の家の中は、屋根が低い家々、その真横に広がるファーム、そして日本と比べ物にならないほどの大きな青空といった素晴らしい景色が続いています。こういった季節を含め、環境そのものが日本と大きく違って、異文化そして自然大国オーストラリアをペットの犬とそこらを散歩しながら満喫する日々です。

到着して次の週から補助教員のお仕事が始まりました。Term1の途中からの参加ですが、バラハイの先生方そして子どもたちは「Tomoi? Tomoni?」と慣れないであろう日本ネームを一生懸命発音しながらあたたかく迎えてくれました。日本の中高生にあたるYear7からYear12までの日本語のクラスに参加していますが、まず「オーストラリアの子どもたちが日本語を学んでいる」という事

実にひたすら驚きました。もちろんわかってはいたことですが、わたしたち日本人が英語を学ぶということはあっても、そのほかの言語を母語とする人々が日本語を学んでいるという感覚がとて新鮮で、驚きと同時にとてもうれしく思いました。まだまだ子どもたちの顔と名前を覚えたり、何かわたしにできることがないか模索したりという日々ですが、「日本語がおもしろい」「日本に行ってみよう」と探究心あふれる子どもたちの支えになれるよう、今年1年駆け抜けたと思います。

とてもとてもありがたいことに、同じバララットに2人、そして隣町のジーロングに1人と同期の2017年度派遣生が3人も来ており、メルボルンにて最後の研修以来の再会を果たしました。まだ右も左もわからないわたしにとってはとても心強い存在であり、感動のあまり心の中で涙していました。ときどきSNSや電話を通じてお互いの近況を話したり、それぞれの学校や授業の様子や意見を聞いたりすることができ、補助教員というお仕事の勉強そして反省をしながらとてもうれしく思っています。これからも共に研修を頑張ってきたみんなと支えあいながら、またホリデーで会えることを楽しみに、まずは残りのTerm1を精一杯努めていきたいと思っています！



## 充実した毎日です

### ロレト・カレッジ（バララット、VIC）

#### 溝 淵 陽 香

渡豪して1カ月半ほど経ちました。最近の私は、一言でいうととても忙しい日々を送っています。学校では、一日に3人くらい12年生の会話練習をして、2~3時間授業に出て、気づいたらもう帰る時間だ、と感じることが多いです。忙しいのは先生だけでなく生徒も同じで、3月に入ってからSACとよばれる定期試験のようなものが続きました。日本語は、読み書き・リスニングだけでなくオーラルの試験もあります。このオーラルの試験が生徒にとっては大変で、苦手としている子も多いように感じました。12年生の週1度の会話練習は主にこのSACへの準備に使い、11・10年生も日本人留学生に手伝ってもらいながら練習に励んでいました。私は、実際に試験で会話の相手になってレコーディングをしたり、採点のお手伝いをしたり、責任ある仕事にもチャレンジさせて頂いています。毎日たくさんすることがありますが、仕事に追われるのではなく自分から追いかけて、学校や生徒のためになることをしたいと思います。

忙しい忙しいと言いつつも、週末はしっかり遊んでいます（笑）ビクトリア州の学校に派遣されているほかの3人とメルボルンの日本祭りに行ったり、バララットの映画館で映画を見たりしました。ロングウィークエンドと呼ばれる3日間の休みの間には、車を借りてグレートオーシャンロードにドライブに行きました。Ballarat から Geelong へ向かい、Anglesea、Lorne、Apollo bay、Warrnambool、Port fairy とまわり、端から端までグレートオーシャンロードを満喫する旅です。おもしろそうなところがあったら立ち寄って、ビーチにいたり、滝を目指して林の中を歩いたり、レストランでフィッシュアンドチップス

を食べたりしました。有名な Twelve Apostles にも行きましたが、そこから少し離れた場所にある穴場スポットのような湾を見つけて、そこから3人だけで壮大な景色を見たのがいい思い出です。

Term1 が終わると初めてのロングホリデーがやってくるし、もうすぐ新しいホームステイ先にうつる予定なので、ワクワクがいっぱいです！こちらの生活に慣れて「当たり前」に変わってくることも多いですが、新しいことにどんどん挑戦して、つねに新鮮な気持ちを持っていたいと思います。



「White Night」というイベントがバララットでありました。



Twelve Apostles



穴場スポットの写真です。



## TERM1 も後半突入

### ウエストボーン・グラマー・スクール (VIC)

#### 関尾 椎菜

オーストラリアに来て1か月半が経ちました。学校での仕事にもようやく慣れてきたということで、今月はアシスタントの仕事について書いてみたいと思います。

ウエストボーンには Prep(5歳児)から Year12(高3)までの生徒が在籍していますが、私が主に携わっているのは Year7~12 の授業です。授業中は、問題を解いたりワークをしている時に生徒が理解できているか、きちんと取り組んでいるかを見て回ったり、生徒からの質問に答えたりします。またいくつかの授業では、編入してきたなどの理由でクラスの進度についていけない子や、逆に先取りしたい子を個別に教えることもしています。

授業がない時間は、先生から依頼を受けて教材作りを手伝っています。印刷やラミネートをするだけのもののみならず、自分で資料を探してきてハンドアウトを作らなければならないものもあります。仕事に慣れてきたとはいえ、生徒が取り組むのにちょうどいいレベルか、興味を持てる内容か、この漢字/語彙は理解できるか…などまだまだ自分ではわからないことも多く、とても苦勞していますが、色々と考えたり、調べたり、工夫したりしながら作るのは楽しく、やりがいもあります。



Swimming Carnival. Year12 の生徒たちが自分たちで決めたテーマでコスプレをして歩きます。この生徒たちのテーマは「Decades」だそう。

そして、アシスタントの仕事で最もメインとなるのは Year11 と 12 の会話練習です。VCE(大学に入学するための統一試験)での Speaking のための練習で、Year11 は 3 人 1 組で 2 週間に 1 回、Year12 は一対一で 1 週間に 1~2 回練習があります。Year11 は自分のことや学校のことについて、細かい質問(「趣味は何ですか」「休みの日に何をしますか」など)に答える練習ですが、Year12 になるとトピックが増え、質問形式も大まか(「家族について話してください」「今年の勉強はどうでしたか」など)になり、格段に難しくなります。それでも生徒たちは習った文法を使ったり、自分の知っている言葉で伝えたりしようと一生懸命頑張っており、彼らのそんな姿には本当にいつも感心させられます。

生活面ではホストの子供たちとも少しずつ話せるようになり、楽しい毎日を送っています。一番下の女の子(3歳)がなかなか名前を覚えてくれなかったのですが、最近「Shiina! Can you play with me?」と言ってくれるようになってとても嬉しいです。時々わがママが過ぎたり、私をからかったりすることもあります。慣れてきて距離が近づいたのかな、と思うと嬉しくもあります(笑)

しかし悲しいこともありました。南アフリカから遊びに来ていたホストファザーのお母さんが帰ってしまったのです。私が来た時から 3 週間ずっと一緒に過ごしていたので、お別れの時はとても寂しかったです。日本語や日本の文化についてたくさん聞いてくれて、「いただきます」や「おやすみ」など覚えた日本語を使ってくれる、とても優しく素敵なおばあちゃんでした。(裏面へ)



空港行きのバス乗り場で。いつか南アフリカに行って、もう一度会いたいな!



→また先月末には、早くもバララットのアシスタント3人とメルボルンで再会が叶いました！お互いの仕事や生活について話したり、日本を懐かしんでみたり…とても楽しかったし、他のアシスタントが頑張っていることを知って自分も頑張ろう！と改めて思いました。

さて、Term1 も残り 2 週間ほど。今のホストファミリーとの生活もあと 1 か月足らずです。一日一日を大切に、学校での仕事もホストとの時間も楽しみたいと思います。(完)

まもなくオーストラリアの学校は秋休み  
アシスタントたちには初めての長期休暇  
がやってきます。楽しんでくださいね。

事務局より



## 神戸日豪協会総会&2016年度日本語教師アシスタント帰国報告会

6/24(土) 於:神戸市勤労会館2F 多目的ホール(予定)

総会 17:30~(会員のみ) 帰国報告会 18:00~

大人 1100 円 学生 600 円(予約不要・どなたでも歓迎)

\* 第2回帰国報告会は7月29日(土)の予定です。

今年度の会費納入がお済みでない方へ

毎号 WALLABY 表紙上部に金額・振込先を掲載しています。

何卒よろしくお願いたします。



### 神戸日豪協会への寄付

英語で語る会より

岩森俊明様

谷川厚子様

川鍋彰男様

永尾勝利様

藤田公昭様

水田泰宏様

ありがとうございました

3月13&20日、神戸開港150周年を記念して  
クイーンエリザベス号が入港しました

乗客定員 2,068 人

全長 294m

全幅 32.25m

総重量 90900 t

マンション3棟分ほど  
の大きさでした！

